

平成28年度第1回花巻市子ども・子育て会議 会議録

日 時 平成28年10月24日（月）午前10時から午前11時50分まで
場 所 花巻市交流会館 2階 第2会議室
出席委員 伊藤達也委員、本宮信也委員、玉山敦子委員、照井義彦委員、佐藤千秋委員、
瀬川和子委員、佐々木繁夫委員、佐藤恵委員、牛崎恵理子委員、新田光子委
員、中村良則委員、鎌田文聰委員、佐藤良介委員（13名）
欠席委員 鎌倉公順委員、高橋加奈子委員、晴山めぐみ委員、柳原賢一委員、高橋圭子
委員
市出席者 佐藤教育長、こども課高橋課長、八重樫課長補佐、藤村係長、伊藤上席主任、
伊藤主事

1 開 会 こども課八重樫課長補佐

2 あいさつ 佐藤教育長

おはようございます。週初めの大変お忙しいなか、ご出席賜りましてありがとうございます。国民体育大会も終わり一段と寒くなってまいりましたが、お陰様で花巻市では皆様のご支援をいただき7競技を実施することができました。一昨日からは全国障がい者スポーツ大会が開催されており、私も開会式と閉会式に出席しましたが、大変感動的な内容で、子どもたちにとってもいい機会であったと思います。また、市民をあげての取り組みの中で、子どもたちにも熱心に応援やお迎えをしてもらったわけですが、こういった勉強は非常に大事だと改めて感じた次第であります。子どもたちも立派に役割を果たしてくれました。また、花巻出身の選手の方々の活躍も素晴らしく、子どもたちの大きな自信になったと思います。そういった土台を皆様には日頃から作っていただいていることについて改めて感謝申し上げます。本日は皆様に準備まで沢山のご意見とご指導をいただきながら平成27年度にスタートした花巻市の子ども子育て支援事業計画であるイーハトーブ花巻子育て応援プランを議事といたしました。このプランは平成31年までを計画期間としており、年度毎の実施状況又は成果をご報告し点検・評価をしていただきながら充実を図っていくものであります。本来はもっと早い時期の開催を考えておりましたが、全107事業の決算を踏まえとうえでの評価を集約したためにこの時期の開催となったこととお詫び申し上げます。本日は平成27年度の実績と進捗状況から公立保育所再編の進捗状況まで4点を議題としてご意見を賜りたいと存じますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

3 議 事

(1) イーハトーブ花巻子育て応援プランの実施状況について

(藤村係長より資料3について説明)

(中村会長) イーハトーブ花巻子育て応援プランの平成27年度実績と平成28年度の進捗状況についてお気づきの点等ご意見がありますか。

[質疑等]

(中村会長)

学童クラブについて待機児童が平成28年度はゼロとなっているが、これは聞き取りをしたということですか。

(藤村係長)

ハッキリとした調査日までは記憶しておりませんが、平成28年6月頃に全学童クラブに対して、申込みを受けた児童のうち受け入れてきていない児童の数、いわゆる待機児童について調査した結果の数値で、その後も聞き取り等をしているが待機児童はいないという状況です。

(鎌田委員)

2点だけ確認したい。1点目は107番の障がい児・障がい者支援施設整備事業について、説明はなかったがイーハートーブ養育センターの整備について、素晴らしい事業をされていますね。もう1点は最初にお話しいただいた利用者支援事業について平成31年までに窓口へ有資格者を配置するという計画でよろしいですね。

(藤村係長)

利用者支援事業については現時点で有資格者を配置できていない状況ですが、これについては来年度に向けて、現在配置している職員が子育て支援員研修を受けることにより要件はクリアできるので、研修事業を市で計画できればと考えている。また、これに限らず、子育て支援員の研修を希望する方もあると思うので、そういった方々も受けられる研修事業を計画できればと考えています。

(玉山委員)

子育て支援センター事業について、石鳥谷保育園でも開設しているので現場の声をお聞かせしたい。皆さんは子育て支援センターにいらっしゃる方はどのような方が想像してみたことはあるでしょうか。私も保育園に来てから子育て支援センター所長もしているが、いままでは地域の中に遊ぶ相手もないし、ママ友達も欲しいし、悩みもあるという方々が友達の輪を広げるために来ていると思っていた。もちろんそういった方が多いが、中には検診で子どもが多動気味と言われたことで悩み、表情も暗くなり子どもとの関わりが上手く出来なくなってしまった方がいて、職員が子どもと遊ぶ一方で母親に寄り添って支援しているケースもある。最初は自ら進んで関わる意識もあまり見られなかったが、現在では表情も和らいできて他の参加者とも話せるようになった。また、遠くから来て、核家族で、一人で子育てしていたが、子どもが夜泣きやイヤイヤするようになり子育てが嫌だと感じている方に一時預かりを勧めた。それが切っ掛けで気分転換できるようになり今でもセンターを利用してもらっている。そういった方々にちゃんと声を掛けていけるように頑張っているという状況も知っていただきたいという気持ちです。

(中村会長)

子育て支援センターもとても大事な事をしているし職員も心を砕いて対応していただけているようである。

(佐藤良介委員)

学童クラブについて平成28年度の待機児童はゼロということだが、私が知っているところでは4月に小学校に入学する子どもを学童クラブに申し込んだが断られたという話を聞いている。待機児童の数については学童クラブの定員を満たしているということなのか、入りたいけど申し込みしていないということなのか、待機児童のとらえ方についてお聞きしたい。

(藤村係長)

学童へ申込みがあった子どものうち入れない子どもについて調査した。ただし、正式には申し込んでいないが学童との話の合いの中で入所を諦めた方もいらっしゃるのだろうと今のお話で感じているところです。今後は申し込みの有無ではなく、学童利用の需要に対してどれだけ受け入れられているかについても考えなければならないと感じています。

(本宮委員)

学童は秋から冬にかけて申込みを受けるが、先ほどの話のように入れないかもしれないとか、継続入所についても4年生以上はスペースがないので自主退所してもらうと

いうケースもある。待機が無いのは待っていても入れないからであり、どの学童に聞いても待機はないという回答になると思う。潜在的な待機や泣く泣く退所している子どももいると思っている。市連協でも独自の調査を進めているが、建物が狭くて入れないという先入観を持っている方に、本当は利用できる状況を説明する必要もあり、ニーズ調査の方法が課題となっている。色々と調査はしているが単純に数値に現れない状況である。ただ、宮野目学童や花巻とひまわり学童については定員ギリギリの状況なので今後ニーズが増えれば十分に受け入れられない可能性がある。

(藤村係長)

確かに5年6年生の受け入れについて入りたいけど遠慮しているような話は聞こえてきます。これについては入らなければいけないけど入れない方もいれば、できれば入りたいという方もいると思うので、対象としてどこまで捉えるべきか、こういった会議の場においてご意見を頂きながら意思を統一したうえで考えていきたいので、今後ともご指導頂ければと思います。

(中村会長)

学童については前回も同様な話であったと思う。年々、子育てで学童保育の占める比重は大きくなっていると思う。学童の自主的な取り組みだけではなく市全体で支援も充実しなければならぬと思う。市連協の方々との情報交換をして望ましい取り組みは何かを考えると一つのルートもある。市民全体の中で学童保育に対する需要と支援の体制はどうあるべきかの要望を細かく把握する必要があると思うので市でも検討してもらいたい。

(牛崎委員)

イーハトーブ養育センターが新しくなるのは長年の夢が叶ってとても喜ばしいことだと思っている。イーハトーブ養育センターでは児童発達支援の他に保育所等の訪問支援事業も行っていると思うが、これは、支援の必要な方のいる保育所等に支援員が訪問して支援をしているが、担当課が違うとは思いますが高橋課長は以前に障がい福祉課にいらしたので平成27年度は何人くらいが利用されたかわかりますか。

(高橋課長)

ただ今お話がありましたとおり、昨年まで障がいの方を担当しておりました。養育センターについては牛崎委員のおっしゃるとおり養育センターのみを利用する子どもさんと、保育園を併用されるお子さんがいらっしゃるが、併用されている保育園の方に指導員が出向いて保育園での活動について助言を行うのが日常の支援です。平成27年の実績については本日資料を持ってきておりませんが、併用されている子どもさんについては間違いなく支援員が出向いて指導を行っています。

(牛崎委員)

併用していない方への訪問は行っていますか。

(高橋課長)

併用していない子どもさんへの訪問は行っていません。

(照井委員)

子育て支援の乳児全戸訪問について生後4か月まで訪問となっているが、指標では7か月検診で安心できる人の割合として平成27年度は89.6%となっているので、残りの10.4%は不安であるということになる。この方々について子どもが大きくなってからことばの教室に通い5歳児になってから、もっと早くやればよかったと保護者が気づく。訪問を4か月ではなく1年まで独自に拡大していただければ言葉の部分の障がいを早めに対応できると思っている。

(藤村係長)

このご意見については前回の会議でも頂いていたと認識しております。おっしゃるとおりですが、事業対象の部分について今時点で拡大するとは申し上げられませんが、この事業単体としてではなく、他の事業との連携については必要であると考えています。例えば発達の状態が気になる場合は保健師からこども発達相談センター等と連携するなど、子どもへの関わりの部分も重要と思いますので、今後も引き続き検討してまいりたいと思いますので、ご意見として頂戴したいと思います。

(中村会長)

この家庭訪問事業の平成27年度実績89.6%は訪問した数でしょうか。

(藤村係長)

数値の根拠の部分について手元に資料はありませんが、アンケートの数値ではなかったと思っておりませんが、確認させていただき次回の会議の際に改めてご説明します。

(中村会長)

同じ家庭訪問事業について目標値が90%になっているが100%ではないのはなぜか。

(藤村係長)

目標値の設定根拠につきましてはこの事業に限らず、なぜこの目標値なのかという事業が他にもございます。このことについては見直し等も関連する部分でありますので、確認のうえ次回の会議でご説明したいと思います。

(佐々木委員)

計数等の表現の部分について疑問を感じる。例えば保育料負担軽減事業は平成27年実績、平成28年見込みは36.8%であるが目標値は34.4%となっている。これは今よりも実績を下げるという意味なのか。他にも特定妊婦支援事業は特定妊婦の支援を行う内容なのに指標は特定妊婦数なのに実績は人数ではなく件数になっている。他にも少年センター事業の有害図書自販機撤去数については、実績・見込みとも0箇所となっていて目標値は1箇所となっているが、全体のうち何箇所撤去したいのかが分からず、何割達成したかが判断できないのでその点を検討してもらいたい。

(藤村係長)

おっしゃるとおりで、説明の中で触れた部分とご指摘を頂いた部分も含めて全体的にもう一度確認が必要と感じています。誤った表記については修正しなければなりませんし、それ以外の部分でも説明の足りない部分については分かるような中身にしていかなければならないと感じていますので、次回の会議には整理したものお示しできるようにしてまいります。

(佐々木委員)

検討の方法についても一人で行うには無理があるのでちゃんと考えてもらいたい。

(藤村係長)

この主要事業は各分野の様々な事業があるので、それぞれの担当から指標や目標値の意味や根拠について相互に確認しながら進めてまいります。

(佐藤教育長)

この表の構成も悪いのですが、平成31年度の目標値は計画をスタートさせる時の数値であります。このまま見ると指標の次に実績があり一番右端に目標値が並んでいるので最終的に数値が下がるように見え誤解を与えてしまう。この部分について説明が足りませんでした。また、本来は目標値を右端ではなく指標と並べ、その右側に実績値を表示するようにするべきであった。ただ、%と件数については表記の仕方も悪い。有害図書も平成31年までには1箇所撤去を目標とするが、平成27・28年は出来ていないという表記になる。ただ、情報収集が不十分であり、この表について各事業の担当を集めてチェックが必要であったがそれが出来ていなかった。その点についてはお詫び申し上げます。

(佐々木委員)

民生児童委員の活動について、この表で平成27年度は3,199件となっているが、自分

が同じ民生児童委員から聞いた件数はもっと少なかった。何の数値なのよく分からない。また、目標値についても支援が必要な件数が平成31年には3,500件の目標となっているが、支援とは必要があって支援するものなので、目標としての提示の仕方は疑問なのでこの点についても検討してもらいたい。

(中村会長)

指標の出し方・考え方・根拠について整理が必要となる。他の会議でも民生委員さんが様々な活動をしており成り手がいないと聞いているので、この目標の3,500件は容易なことではないと思う。高齢化が進む中で人手の部分はとても大切だと感じるのでそういった面での支援も必要であると考えます。

(中村会長)

この部分については話が尽きないと思いますがまだ議事が残っておりますので、次の議事に移りたいと思います。

(2) 子ども・子育て支援新制度における花巻市の平成27年度施設利用実績と平成28年度
状況について

(藤村係長より資料4について説明)

(中村会長)

子どものための教育・保育認定状況については一人一件として考えてよろしいですか。

(藤村係長)

はい。

(中村会長)

入所待機児童状況について、4月から10月に向けて増えているが例年このような状況ですか。

(八重樫補佐)

例年の状況をみますと、年度当初は待機が無い状況でも後半になると待機が出る状況で、ちなみに平成26年度、27年度の4月1日時点では待機児童はゼロだったが年度末には待機が発生しており、平成28年度については4月1日時点から待機が発生している状況です。

(鎌田委員)

待機児童は特に0歳児が多いようだがニーズが多いということでしょうか。

(八重樫補佐)

4月1日時点の年齢で分類しておりますので、育児休業が明けて復帰する際に保育園を利用したいという申込みが年度内であれば多いですので、申し込む時点では1歳になっているお子さんも中にはいらっしゃいますが、4月1日時点の年齢ということで0歳時の人数が増えているという状態です。

(佐藤教育長)

ここが一番のポイントになりますが、その理由と対応とこれからの見込みについてご説明します。

(八重樫補佐)

0歳児のお子さんの申込みが増えているということで、育児休業の復帰というお話もしましたが、それと併せまして平成27年度から子ども・子育ての新制度がはじまりまして、休職中の方でこれからお仕事を始められる方についても申込みの対象ということで対象の範囲が広がっています。また、育児休業をしている方についても入ることができるように要件が緩和されています。そういった状況の中で保育園の入所受け入れをしています。仕事をこれから始めたいという休職中の方でも0歳児から預けたいという方が増えている状況で、この子ども・子育て応援プランで受け皿を確保するとしていますが、それを上回る勢いで申込みが増えている状況がありまして、結

果的には待機が増えております。今後の待機になっているお子さんの受け皿として、平成29年度に小規模保育事業所の開所が予定されています。この施設は0歳から2歳児までを受け入れる施設になっており定員は19名までと小さい施設ですが、実際に待機が出ている0歳から2歳児までを受け入れることとなります。待機の人数をみると十分ではありませんが来年度に向けて受け皿となる施設ができるので市としても支援をしていきます。また、平成29年度から認定こども園に移行する施設もあり、そちらで0歳児から2歳児の定員を増やす方向で計画をすすめられており、認可についても市で支援をしているという状況であります。

(中村会長)

現場の声として照井委員からどうでしょうか。

(照井委員)

まだ検討中の段階ですが、できるだけ待機児童を減らしたいと考えています。

(中村委員)

市の計画では施設整備等を含めて平成29年度には待機児童を解消するとしていますが、今現在で待機児童へ支援は何かされていますか。

(八重樫補佐)

市では一時預かりやファミリーサポートセンター等のサービスを紹介しておりますが、一方では認可外施設の利用や、家庭で協力しながら保育をしていただいている現状もあります。ただ、毎月の入所調整の中で法人立・公立保育園で保育士確保や運用の中で受け入れることができるような努力も継続しています。

(中村会長)

認定保育子どもの施設利用状況表の計が合わないが何の数値ですか。

(藤村係長)

申し訳ございません。合計値が誤った表記になっておりました。単純に2施設の合計値になるものです。

(3) 放課後児童健全育成事業の平成27年度実績と平成28年度の状況について

(藤村係長より資料5について説明)

(中村会長)

トータルで962人の子どもが学童を利用されているということですが、これは1年から4年生まではどれくらい入れているのですか。

(藤村係長)

1年生から4年生までの数ということで詳細な資料は持ち合わせておりませんが、新1年生についてはどこの学童でも基本的には受け入れておりますし、継続して利用を希望される児童についても極力受け入れているというお話は聞いており、要望については満たしていると認識しております。

(鎌田委員)

障がい者との共生社会を作るという岩手県の大事な目標があるが、発達に心配があるお子さんで学区外の学童に入りたいとした場合に入れていますか。他市では障がいのある学区外の子どもでも受け入れている事例があるのでその辺をお聞きしたい。

(瀬川委員)

障がいの有る無しに関わらず生きる権利は一緒だと思っており、わこの家学童クラブでは当初から軽度の障がい者を受け入れており、南城小学校や清風支援学校のお子さんも受け入れています。障がい者であってもそうでなくても一緒に生きるということが一番大事だと思っています。

(藤村係長)

各学童における学区外からの障がい児の受け入れ状況につきましては、今お話のあつ

たわこの家学童クラブさんが希望があれば学区外であっても受け入れをされている状況はお聞きしておりましたが、その他の学童についての情報については把握できていません。

(佐藤千秋委員)

学童クラブの現場の声として、矢沢学童クラブでは支援を必要とする児童が5名を超えています。毎年希望があるが、現在の国の制度ではサポートが必要な子供1人に対して職員1人分ではなく、5人までの児童に対して職員1人分しか加算金が出ない仕組みとなっているが、障がいの程度によっては職員1人で5人まで見ることはできない実態があり、そうした状況から希望者の全てを受け入れてきていませんし、国の制度も実態に追いついていないのが学童クラブの現状です。しかし、施設の広さに限りはありますが、そうした児童を受入れて共生していくことはとても大事なことで、国に対して制度を改善するよう引き続き働きかけていきたいと感じております。

(鎌田委員)

なぜ、このような話をしたかという、今年4月1日から障がい者の差別解消法が施行されたことから、実現は難しいけれども各方面でそういった問題を解決していくために頑張っていくための大切な法律なのでお話をさせていただいたところです。

(4) 公立保育所再編事業の進捗状況について

(高橋課長より資料6について説明)

(中村会長)

10月から引き継ぎ保育が始まるということですが、実際に進めている現在の様子はどうですか。

(高橋課長)

10月3日(月)から引き継ぎ保育を開始ということで、私どもでは年度途中で新たな保育士が入ることにより子どもさんへの影響を心配しておりましたが、非常にすんなりと入ったと聞いております。もうひとつは、いままで従事している公立園の保育士との関係につきましても、引き継ぎを受ける保育士は今までの保育内容を知ってもらうためにもサポート的な立場での従事から始めてもらっているため、まだ1か月経っていませんが、移管後の法人運営に向けての参考としていただいています。今後は年末に向けて保育園では様々な行事等があることから、もう一步踏み込んだ形での引き継ぎが行われることとなります。

(中村会長)

この計画は1期、2期と分かれています。2期についても民営化の計画があるということですのでよろしいですか。

(高橋課長)

2期につきましては平成30年度から平成31年度となりますが、今回の再編指針に基づきますと第2期も民営化ということで進めることとなります。

(鎌田委員)

評価結果についてですが、3園の評価点数のうち湯本学園の評価点2,076点と低いのですが、満点は3,680点と3,220点のどちらですか。

(高橋課長)

湯本学園については3,220点が満点となります。その他は3,680点となります。

(中村会長)

湯本学園は保育園を運営した経験が無いことから他と点数が違っています。

(鎌田委員)

公立保育園の職員構成についてですが、保育士が43名、臨時職員が74名となっていますが、これは今後どうなるのですか。

(高橋課長)

民営化される公立園3園の正職員についてですが、来年度は他の公立園に異動となります。また、非常勤職員（臨時職員）につきましても、移管される園で勤務を希望される方につきましては、移管先の法人での勤務も考えられます。実際に法人からの求人について非常勤職員には情報提供をしております。このことから、来年度につきましても正職員の割合が若干高くなるものと思われまます。

(鎌田委員)

保育士以外の方も同様に考えてよろしいですか。

(高橋課長)

他の職種についても同様となります。

(新田委員)

私は南城保育園の元職員でしたが、民営化については十数年前からありましたが、お話を聞いていよいよだと感じました。当時から正職員と臨時職員が半々の状態で10年くらい続けていたのですが、それが民間委託になったことについて今日の会議で分かることができました。現在、私の孫が南城保育園でお世話になっているので複雑な心境でしたが、今回の会議で市の考えが何えたのでよかったと思いました。先日の保育園の運動会で移管先の職員が紹介された時は非常に驚いたが、説明会も行われているようだが、運動会のように保護者の集まる場も利用されたとは思いますが、保護者の心境は気になりました。

(玉山委員)

先ほどの新田委員のお話とは反対になりますが、平成18年に花巻市に合併した時に、町立であった石鳥谷保育園が法人に移管されました。当初は大変だったが、長い時間をかけて地域からの理解と信頼を得ることができましたので、それと同じくこれからの未来に向けて進めていく事なので長い目で見守ってもらえればと思いますので、そういった面でご理解いただければいいなと感じます。

(高橋課長)

保護者さんの心配なお気持ちはその通りなのだと思います。私どもでも4月に移管すれば終わりとは考えておらず、これからも移管先法人、保護者、市の3者での話し合いについては引き続き必要であると考えております。

(中村会長)

この問題については皆様色々と思う部分もあるかとは思いますが、公の部分民間で引き受けるということは民間の責任も大きくなるということなので、市民としてもその流れを支えていく事が大事かと思うので、今後ともこの会議の場でご意見等をいただいで健全に成長するよう支援したいと考えます。

(藤村係長より資料No.4の施設利用状況について訂正報告)

(中村会長)

以上で議事を終了する。

4 その他

(高橋課長)

今回の会議につきましては2月の下旬を予定しております。内容についてはプランの主要事業についての見直し、移行する施設の認可、利用定員の見直し等についてご意見をいただきたいと考えております。

5 閉会 八重樫課長補佐

以上で平成28年度第1回花巻市子ども・子育て会議の一切を終了します。